弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

看護学部・看護学科
井澤　美樹子

作成日　2023年5月29日

1.教育の責務

2019年（令和1年）度から弘前学院大学看護学部に採用され、本年2023年で5年となる。看護学分野で主として成人看護学領域を中心として、講義や実習科目を担当している。将来看護職の道を志す学生たちに、看護の対象となる人の理解や看護について、根拠を踏まえ考え、他者と共有して深め、実践に活用して省察するという柔軟で主体的な探求ができるような教育を主軸においている。

授業以外では、FD委員として、教育の質向上を目指した研修会を企画している。2022年度には、お互いの授業を紹介し合う「10分間ゼミ」を実施し、各自が行っているアクティブラーニングの工夫点や課題を共有できるようにしている。

2023年度担当授業

科目名	学年	授業種別	開講学期	概要
PHC１実習	1年	実習	前期	早期体験実習
ソーシャルスキル	1年	講義	前期	コミュニケーション
成人看護学Ⅰ	2年	演習	前期	慢性期看護、セルフマネジメント
成人看護学Ⅱ	2年	演習	前期	慢性期看護、回復期看護
リハビリテーション論	2年	講義	後期	回復期看護、ICF
成人看護学実習Ⅰ	3年	実習	通年	慢性期看護
統合実習	4年	実習	前期	慢性期看護
卒業研究	4年	論文指導	通年	慢性期看護

2. 教育の理念

私が教師として大切にしていることは、教師が教えることを止めることである。教師は教えるという存在ではなく、学生が安心して感じ・考え・ディスカッションし、省察できる環境を調整し、学生の経験を承認する存在でなければならないと考えている。

また、看護は複雑な現象であり、人生の多様な局面と関わるため、正解のない混沌とした場である。そのような中で、学生が「看護は難しいけれど、面白い」と感じる経験を通して、学生自身が自分の経験を大切にして、振り返り、こだわりを持って考える主体的な学修によって、自分の経験を意味づけ成長していけることを目指している。

具体的には、以下の3点を目指して、動的で複雑な看護の場で、ときに葛藤を抱く経験をすることもあるが、強さとしなやかさを持った豊かな人・医療者へ成長してほしいと考えている。

①看護の対象である人を、人生の主人公であり、その人の人生を生きている生活者として捉え、持っている力を信じた看護ができる。

②他者とディスカッションし、多様性を共有して、考えを巡らせ、看護とは何かを考え続ける姿勢を持つ。

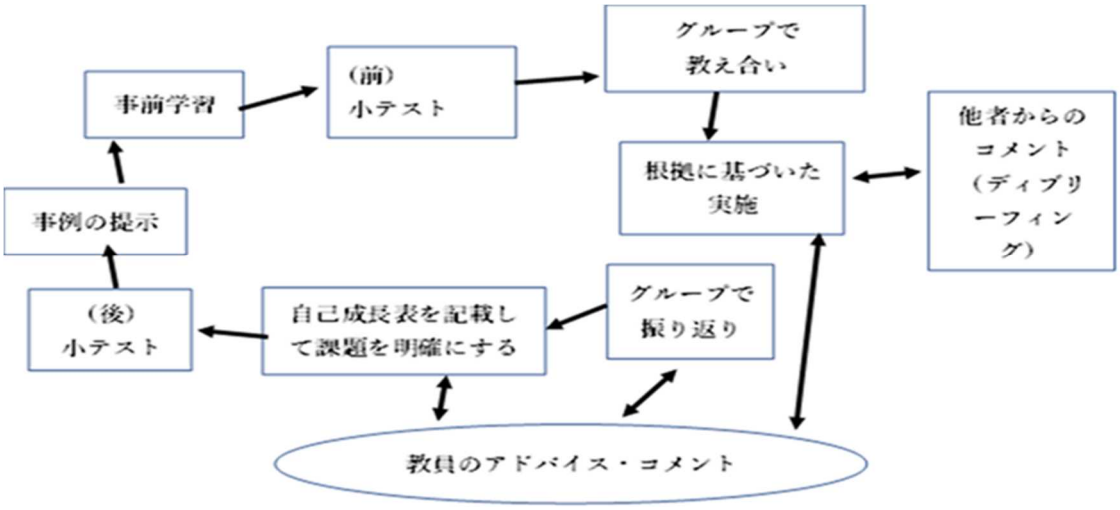
③様々な経験や学問を手掛かりに、関心を開き、思考を巡らし、実践を積み重ねる活動を継続していく。

3. 教育の方法

看護という場は、複雑な現象が流動的に生じる。そのような場で学生が経験を意味づけ成長していくためには、学生の主体的・能動的な学修が必要となる。学生自身が経験している現象を感じ・考え・実施・振り返るという反省的経験ができるように授業を工夫している。私の教育の考え方は、教員が教えないことをモットーとしている。学生自身が、他者に教える経験や考えたことを実施する経験を通して、理解を深めるアクティブラーニングを行っている。

講義では、図に示したプロセスのように、反転授業を実施している。

①臨床に近い事例を提示②事前学習による事例分析③グループワークによる分析④事例に対する実施（ロールプレイ）⑤実施場面から分析内容をグループワークで振り返る。その際、他者（教員も含め）からのコメント（ディブリーフィング）も活用して振り返る。⑥目標達成度自己評価（自己成長表記載）して単元の目標達成度や課題を明確にする⑦講義の前後で小テストによる知識の確認



4. 教育の成果

授業評価アンケート及び理解度自己評価（学修自己成長表）の結果を示す。
1. 講義について
1）学生授業評価の結果から
①「学生自身の自己評価」に関して
「シラバスに記されている到達目標や評価方法を読んで知っている」「事前学修(予習)・事後学修(復習)に取り組んでいる」は、全学平均より高かった。
②「教員に対する評価」に関して
「理解度や反応を考慮して授業を行っている」「学生の質問や意見に適切に対応している」など全学の平均より高かった。しかし、「学生の理解度や反応を考慮して授業を行っている」は、6.1%は、２の評価であった。
③「授業内容」に関して
「この授業から、新しい知識や技能、専門的な考え方、発想を学ぶことができる」3.9点、「総合的に見て、この授業に満足している」3.7点であり、全学平均より高かった。
2)学生の目標達成度自己評価（自己成長表）の結果に関して
　各単元の理解度の自己評価が80％～100%であった。話し合い教え合うことで、病態の理解が進み、看護の視野が広がったという学生の意見が多かった。
2. 実習について
　学生授業評価では、すべての項目が学部平均より高かった。「この授業から、新しい知識や技能、専門的な考え方、発想を学ぶことができる」平均点3.76、「総合的に見て、この授業に満足している」3.81であった。

5. 教育の改善

　概ね教育の成果はあったと考える。以下に改善すべき点を記す。
1.「教員に対する評価」に関して
「学生の理解度や反応を考慮して授業を行っている」では、２の評価の割合が、講義では6.1%、実習では4.8%であった。理解できていない学生が一定数いることも考慮して、学生の反応を自己評価や小テストなどで確認して、個別のコメント・指導をするなど改善が必要と考えている。
2.「授業内容に関して」
「この授業の進め方のペースは適切か」については、平均点3.3と低い評価でした。教員が実習で大学を離れるという状況が多く、1週間に4コマ行うこともあり、自己学習時間に余裕がないと考えられる。時間割の調整を行い、さらなる授業改善に努める必要があると考えている。

6.教育の目標

短期的には、「授業評価アンケート」の結果を踏まえて、学修習慣が身につかない学生を取りこぼすことがないように、コメントを個別に短時間で返す工夫をしていきたい。中長期的には、学生各自の学修効果・成果の向上が期待される方策を目指したい。例えば、Teamsを活用して、授業に活用する事例（5事例）をセメスター開始前に資料として提示して、授業の見通しをもち、主体的・計画的に学習できるようにしたいと考えている。また、目標達成度や課題をTemas上で学生全員が共有できるようにすることで、他者の成長をともに喜び、自身の成長も実感できると考えるため、学習環境を準備したい。

【資料】

1. シラバス
2. 授業評価アンケート
3. 定期試験結果、および中間小テスト結果
4. 学生提出の課題レポート
5. 目標達成度自己評価
6. 授業改善書